

昨年度の成果と課題

取り組みにおける成果と課題

- ・昨年度の分析から、地図から必要な情報をつかむ能力を高めることをねらいとしたり、資料を読み取る学習を数多くさせたりしていくことを提案したが、今年度の結果を見る限り、5, 6年生では課題はいまだ残る状態である。地図や情報資料に慣れさせたい。
- ・社会的思考力・判断力の向上については、一定の効果が見られたと判断する。その思考力・判断力を今後も発揮していくために、考える時の基となる基礎知識の定着が課題である。

平成28年度の調査結果の分析

結果の分析

- 第4学年は、すべてにおいて目標値と同程度かそれを上回っている。
- 第5学年は、地図の見方が目標値を5ポイント下回っているが、その他はすべて目標値を上回っている。
- 第6学年は、情報・環境・貿易は目標値を大きく上回っているが、その他は下回り、特に世界の中の国土・気候・食糧生産・工業などは5ポイントほど下回っている。
- 「関心・意欲・態度」は、6年生のみ目標値を2ポイントほど下回っている。
- 「思考・判断・表現」は、全学年とも目標値を2～4ポイント上回っている。
- 「観察・資料活用の技能」は、6年生のみ目標値を2ポイントほど下回っている。
- 「知識・理解」は、目標値を4年生で5ポイントほど上回っているが、6年生では7ポイントほど下回っている。

調査結果に基づいた授業改善のポイント及び改善策

- 各学年の発達段階に合わせた地図や地球儀の読み取り方を徹底する。

中：地図や方位を教室など身近な場所に掲示し、日常的に慣れ親しめるようにする。地図記号や方位の用語を使い、地図上の対象の位置や特色を読み取るよう指導する。

高：経度・緯度・赤道などの基礎知識と対象の位置の表し方などの基礎を指導徹底する。また、地図と気候グラフなど複合的に地方の特徴を見取る基礎基本の指導を徹底する。また、授業の際に、社会科用語や地図・地球儀に慣れて活用していく授業を展開する。

※全学年とも、社会科用語を正しく定着させるために、用語の説明を自分で書かせてみたり、学習後も関連箇所でも意図的にその用語を繰り返し使うようにさせたり、プリントを活用したりする。フォローアッププリントも繰り返し活用していくのが効果的だと思われる。また、学習したことを生活やニュースなどと結び付け、記憶に残したり、印象付けたりして、暗記だけでない状態にしていくことも大事である。

- 観察・資料活用の技能を高める。

中：高学年での伸びを考えると、中学年時に「資料の題名と一番につかむべき内容」を常に合わせて指導する。資料から言えることは何でもよいのではなく、題名から一番につかむべきことは何かの基本をしっかり身に付けさせる繰り返しを行う。1つ1つのグラフの読み取り方をしっかり教えておくことも高学年へ向けて大事である。

高：複数の資料を関連付けて読み取る練習を意図的に行う。資料の題名から大事な情報をそれぞれ正しくつかみ、それらを合わせて考えると何が言えるか、どう表現したらいいかを授業中に繰り返すと共に、フォローアッププリントなどを活用し、答え方や用語の使い方に慣れる学習をしていく。